

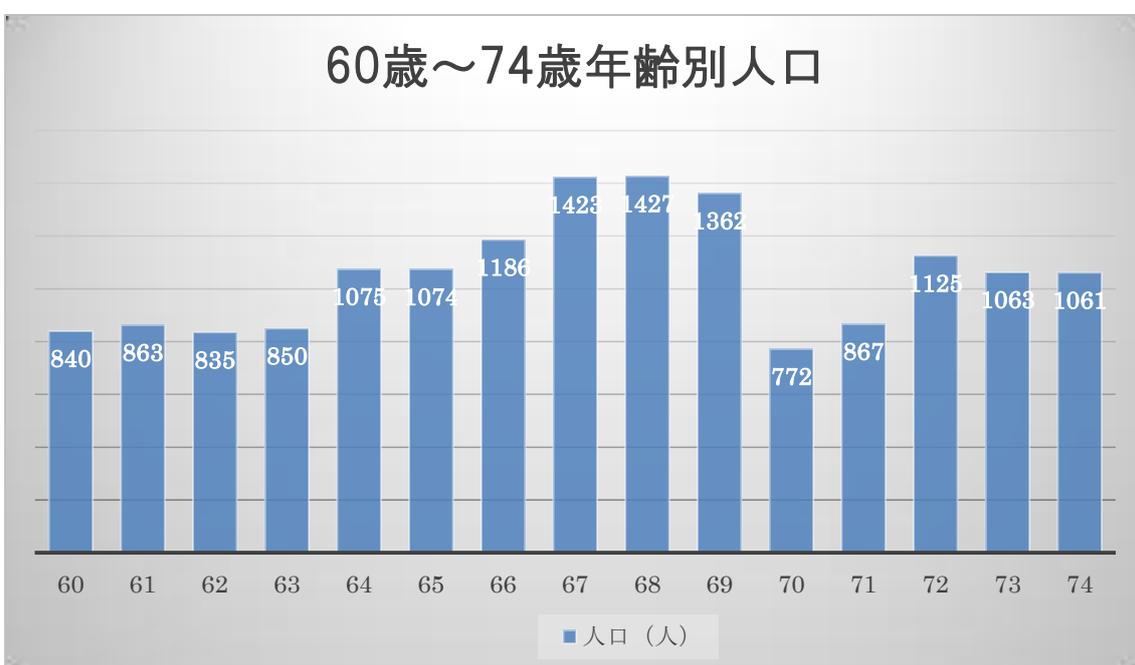
資料

資料1：本市の高齢者人口

平成28年10月1日現在

本市の人口は、80,781人

高齢者人口は、20,568人（年齢別は次のグラフのとおりです）



資料 2 : 施策の利用状況

平成 2 9 年 2 月 2 8 日現在

事前登録者数	142人
反射シール・アイロンプリントシールの配布数 	137人
かえるお守り(Bluetooth タグ)保有数 	96人
GPS 保有数 	20人
協力団体の登録(見守り隊) 	119団体 介護事業所・交通機関・スーパーや 商店・医院・郵便局・薬局・金融機関
携帯メールサポーター 	470人
スマートフォンアプリインストール者(ぶじかえる応援 団) 	638人

資料 3 : 平成 2 8 年度行方不明届出・対応状況

平成 2 9 年 2 月 2 8 日現在※市役所に届出のあった件数のみ

行方不明届出・対応件数	19
事前登録者	15
かえるお守り (Bluetooth タグ) 保有者	13
GPS 保有者	0
対応後に事前登録した人	1
対応後にかえるお守りを保有した人	3
対応後に GPS を保有した人	4

資料4：地域や関係機関等への説明及び市民への啓発

【自治会、民生児童委員、各関係機関等への説明・啓発】

平成27年11月	固定受信器設置場所の検討(設置地区の自治会やコミュニティ協議会に協力を依頼)
	固定受信器設置場所の現地下見(設置地区の自治会やコミュニティ協議会に協力を依頼)
平成28年1月	地域包括支援センター運営協議会で施策説明
	包括ケア会議で施策説明
	自治会長会役員会で施策説明
	自治会長会定例会で施策説明
	民生児童委員役員会で施策説明
	民生児童委員定例会(6地区)で施策説明
	阪急長岡天神駅及び JR 長岡京駅周辺の商店等へ施策説明、チラシ配架依頼

【その他市民啓発】

平成28年1月	京都新聞「Bluetooth 機能を利用した見守り体制紹介」
平成28年2月	京都新聞「Bluetooth 機能を利用した見守り体制紹介」
	市広報特集「Bluetooth 機能を利用した見守り体制紹介」
	認知症サポーター養成講座で施策説明(迷い人情報メール)
平成28年3月	京都新聞「認知症対応型カフェ報告会紹介」
	京都新聞「ぶじかえる応援団対象講座紹介」
	市広報特集「Bluetooth 機能を利用した見守り体制紹介」
	認知症サポーター養成講座で施策説明(迷い人情報メール、Bluetooth)
平成28年4月	市広報誌表紙「Bluetooth 機能を利用した見守り体制 PR イベント紹介」
平成28年5月	京都新聞「高齢者見守り活動紹介」
平成28年6月	映画「徘徊ママリン87歳の夏」上映会にて見守り体制について説明
	セブンイレブンジャパン向日市長岡京市合同認知症サポーター養成講座にて、Bluetooth 機能を利用した見守り体制について説明
	京都新聞「Bluetooth 機能を利用した見守り体制検索体験会紹介」
平成28年10月	朝日新聞「行方不明者検索体験紹介」

資料5：事業実施にあたり市内ケアマネジャーに行った調査結果

調査対象者：長岡京市内にある居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護に
属する介護支援専門員

調査回答数：57件(介護支援専門員数 70人) 回収率81.4%

Q1：担当されている要介護認定者	1,491人
Q2：うち認知症の診断を受けている方がいるか	いる・・・52件 (総数505人) いない・・・4件
Q3：診断はないが認知症状の気になる方がいるか	いる・・・52件 (総数505人) いない・・・4件
Q4：Q2・3のうち、行方不明になった方はいるか	いる・・・29件 (総数47人) いない・・・28件
Q5：Q4で回答された方の行方不明時の対応状況について教えてください。(複数回答可)	本人が戻ってきたので何もしていない・・・7件 家族のみで対応された・・・17件 ケアマネジャーや事業所に連絡があり対応した・・・14件 警察へ連絡をして対応した・・・15件 市役所や地域包括支援センターへ連絡して対応した・・・6件 その他・・・7件
Q6：事前登録をしている方はいるか	いる・・・30件 (総数48人) いない・・・23件
Q7：事前登録をされない理由は何ですか。(複数回答可)	書類作成に時間がかかる・・・4件 写真がない・・・5件 登録するほどの状態ではないと本人や家族が思っている・・・35件 行方不明になる可能性があることを周りに知られたくない・・・3件 個人情報あまり外に出したくない・・・5件 大げさにしたくない・・・8件 家族の問題なのでかまってもほしくない・・・1件 回答なし・・・11件 その他・・・9件
Q8：担当されている方のうち、GPSを利用している方はいるか	いる・・・15件 (総数17人) いない・・・38件

※調査結果より抜粋

資料6:Bluetooth タグ配布のための個別訪問時にいただいた意見・感想

平成28年3月～ Bluetooth タグ配布のための個別訪問開始

個別訪問時に家族から聞かせていただいたご意見や感想は以下のようなものがありました。

- GPS を持たせようとしたが、大きくて持って出かけてくれず困っていたので助かる。
- GPS 等で探しているが、家族だけで探すのは難しい。協力してもらえると気持ちも楽になる
- 玄関ドアに鈴をつけたり声をかけたり工夫しているが、いつの間にかいなくなっていることがあり、警察のお世話になったこともある。毎日気持ちが張りつめて疲れる。市役所に言ったらいいと言ってもらえてよかった。
- まだ行方不明で捜索したことはないが、ふらっと出て戻れなくなり、近所の人に家まで送ってもらったことがある。すぐ山なので探すにも怖いし、こういうものがあると安心する。
- 大きなスーパーなどでは、そのスーパーの中で行方不明になることもあり、買い物するだけでもかなり気を遣っている。協力している店等あると聞いて驚いた。
- 今は弱ってしまって徘徊もあまりしなくなったが、一時期はいつ出ていかひやひやしていた。こういうものが開発されて市役所からもらえる日が来るなんて時代も変わったなと感じる。
- 認知症だということを最初は隠していたけれど、徘徊するようになって家族だけでは対応できず、周りの人に話した。もっと普通に認知症だと言っていい雰囲気になるといいなと思う。
- 娘や息子がいるが、遠くに住んでおりすぐに駆けつけることはできない。高齢になって、自分だけではなんともできなくて困っていた。助けてもらえてありがたい。
- GPS を考えていたが、お金がかかるのにすぐ忘れる本人が持てるかどうかと思うと踏み切れなかった。この機器で試してみてもうまくいくようなら GPS も考えたい。
- 初めて行方不明になるまではまさか自分の家族が認知症で行方不明になるなんて思っていなかった。ニュースで聞くくらいの問題だったが身近なところで起きて初めて我が事となった。家族としては本当に深刻な問題だとわかって、いろんな人に知ってもらって協力してもらわないと解決できないことだと思った。

資料 7 : 固定受信器の設置場所及び通過ログ

【固定受信器設置場所】

番号	防犯灯 番号	場所	番号	防犯灯 番号	場所
1	ゆ 297	奥海印寺谷田地区から藪への入り口	10	ろ 418	奥海印寺荒堀藪の側道
2	る 62	奥海印寺太鼓山から藪への入り口	11	ろ 78	高台 1 丁目藪への入り口
3	ゆ 252	奥海印寺北開の藪の入り口	12	ろ 27	こがねが丘、高台 1 丁目の境目
4		奥の院第 1 配水池の中の電柱	13	ろ 266	こがねが丘、高台 1 丁目の境目
5	ら 82	河陽が丘前走田神社に続く入り口	14	ろ 55	高台 1 丁目と 2 丁目の境目の交差点
6	ら 56	奥海印寺明神前の交差点	15	ろ 2	金ヶ原と高台 2 丁目の境目、御陵道沿い
7	ら 199	奥海印寺竹ノ下キャンプ場への入口	16	ろ 190	金ヶ原と高台 2 丁目の境目
8	ろ 395	柳谷道片山田交差点	17	ろ 130	湯川酒店の前
9	ろ 403	奥海印寺鈴谷入口	18	ろ 263	高台 4 丁目、西乙訓高校手前

【受信器設置協力店舗・事業所】

項番	店舗人
1	ENEOS Dr. Drive長岡京店
2	ポッポ自転車一文橋店
3	京宝運輸有限公司
4	SEIYU西友 長岡店1F
5	リパティ長岡店
6	お好み焼き克
7	イズミヤ 長岡店 1F
8	バーバーumemura
9	museum ミュージアム
10	あい薬局 花山店
11	ソフトバンク長岡天神
12	さくら薬局京都長岡京店
13	小倉山荘竹生の郷
14	りそな銀行 長岡天神支店
15	ワイモバイル 阪急長岡天神
16	デイリーヤマザキ 長岡京友岡店
17	万代 長岡京店
18	センチュリー21
19	みずほ銀行 長岡天神支店

【受信器設置協力店舗・事業所の皆様】



【Bluetooth 受信器 通過ログ】

平成29年2月28日現在

設置場所	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
ENEOS Dr. Drive長岡京店	2	2	1	4	35	24	45	24	137
museumミュージアム	0	1	2	2	3	1	0	0	9
SEIYU西友 長岡店1F	169	426	424	639	446	738	983	679	4,504
あい薬局 花山店	17	26	45	28	35	25	58	60	294
イズミヤ 長岡店 1F	249	611	978	1,466	1,005	1,233	1,921	1,237	8,700
お好み焼き克	0	4	3	5	3	9	10	4	38
さくら薬局京都長岡京店	4	21	16	29	6	8	21	16	121
センチュリー21	0	19	14	4	4	15	11	9	76
ソフトバンク長岡天神	21	46	85	296	81	342	384	310	1,565
デイリーヤマザキ 長岡京友岡店	19	40	63	56	43	40	75	114	450
バーバーumemura	0	2	9	13	6	1	0	0	31
ブックマート長岡天神店	47	75	33	0	0	0	0	0	155
ポップ自転車一文橋店	3	34	39	39	45	29	89	26	304
みずほ銀行 長岡天神支店	19	102	16	125	32	70	47	25	436
りそな銀行 長岡天神支店	1	34	166	248	119	113	217	146	1,044
リバティ長岡店	428	165	110	684	502	139	0	0	2,028
ワイモバイル 阪急長岡天神	0	9	10	26	21	31	11	17	125
京宝運輸有限会社	16	45	35	38	19	14	72	22	261
小倉山荘竹生の郷	0	0	6	3	11	0	6	1	27
万代長岡京店	111	172	89	339	328	502	311	214	2,066
奥海印寺谷田地区から藪への入り口00001	0	1	0	4	3	0	0	0	8
奥海印寺太鼓山から藪への入り口00002	18	88	99	138	43	19	57	12	474
奥海印寺北開の藪の入り口00003	0	0	0	0	0	11	0	0	11
奥の院第1配水池00004	0	0	0	0	0	0	0	0	0
河陽が丘前走田神社に続く入り口00005	15	60	58	41	48	28	41	41	332
奥海印寺明神前の交差点00006	39	81	100	121	86	51	84	125	687
奥海印寺竹ノ西山キャンプ場への入り口00007	0	0	21	55	32	4	14	12	138
柳谷道片山田交差点00008	0	5	1	23	9	0	0	2	40
奥海印寺鈴谷入口00009	0	0	0	6	2	0	0	2	10
奥海印寺荒堀敷の側道00010	0	0	0	1	1	2	0	0	4
高台1丁目藪への入り口00011	3	0	0	13	0	1	6	0	23
こがねが丘、高台1丁目の境目00012	2	4	6	10	5	4	17	5	53
こがねが丘、高台1丁目の境目00013	2	5	5	10	5	5	21	7	60
高台1丁目と2丁目の境目の交差点00014	6	15	13	19	15	15	31	20	134
金ヶ原と高台2丁目の境目、御陵道沿い00015	3	22	14	38	19	15	31	24	166
金ヶ原と高台2丁目の境目00016	5	21	20	39	21	17	33	25	181
湯川酒店の前00017	1	0	2	1	2	0	1	2	9
高台4丁目、西乙訓高校手前00018	5	17	6	16	9	12	22	18	105

資料 8 : Bluetooth タグの検証を兼ねた検索体験報告

実施日時及び場所

実施日：平成 28 年 6 月 22 日（水）午前 9 時～午後 5 時

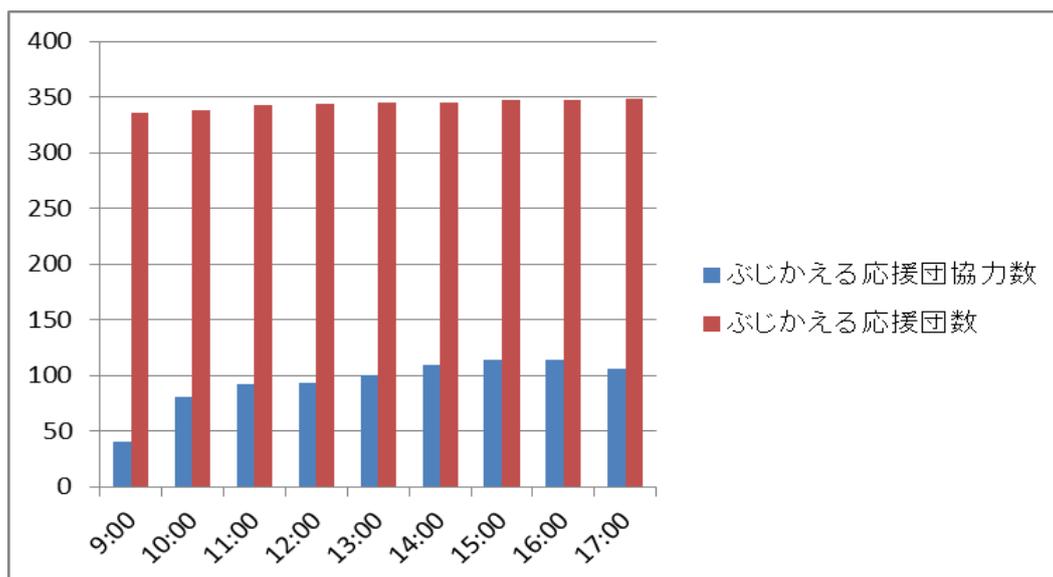
検証結果

【検証 1】

協力要請後の時間ごとの協力者数（午前 9 時から 1 時間ごとに協力者数を記録）

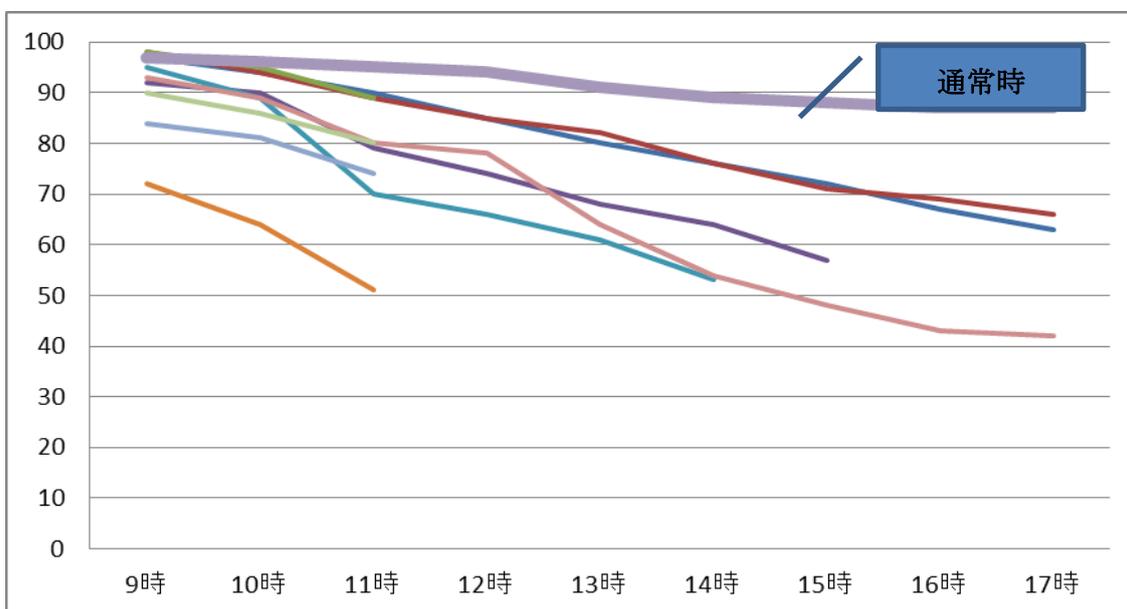
※ボランティアアプリ画面にて確認

時間	ぶじかえる応援団協力台数 （協力要請「入」の台数） ※固定受信器 18 台を含む	ボランティアアプリ登録数 （アプリインストール数）	稼働率 ※固定受信器 18 台を除く
9:00	41 機	336 人	6.8%
10:00	81 機	338 人	18.6%
11:00	92 機	343 人	21.6%
12:00	94 機	344 人	22.1%
13:00	100 機	345 人	23.8%
14:00	110 機	345 人	26.7%
15:00	114 機	347 人	27.7%
16:00	114 機	347 人	27.7%
17:00	106 機	349 人	25.2%



【検証2】

ボランティアアプリ活用時の電池消耗の確認



ボランティアアプリを起動した高齢福祉係職員及び体験に参加する認知症対策ネットワーク会議委員の電池消費を1時間ごとに記録※各スマートフォンの画面で確認

【検証3及び搜索体験】

Bluetoothタグ（長岡京市199及び長岡京市200）を持って徘徊する者を、Bluetoothの受信情報を元に5グループに分けて搜索を行う。

1・2グループは、登録済み搜索者（事前に特定のタグの受信情報をアプリ内で確認できる管理者設定を行ったアプリを使用）

3～5グループは、ぶじかえる応援団（一般ボランティア用のアプリのみ使用）

参加者：認知症対策ネットワーク会議委員、向日町警察署生活安全課、乙訓消防本部警防課

時間	内容
8:45	迷い人情報メール送信 訓練を行う旨をお知らせ ※体験実施日メールサポーター483人
9:00	【テスト】協力要請依頼を配信・協力要請【入】+GPS+Bluetooth起動 ※現在ぶじかえる応援団300人
9:30	各グループに現在の位置情報を提供 会議室に集合 <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの電池容量確認 ・スマホの電池容量記録票を受け取る ・グループに分かれ、現在の位置情報を本部に確認 ・迷い人情報メール情報を紙で受け取る ・情報シートが入った封筒を受け取り搜索開始



9:30	新たな位置情報があればその都度、迷い人情報メール職員メールを利用し連絡
～	
11:00	<div data-bbox="351 313 654 716" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="670 313 1037 739" data-label="Text"> <p>※10:00頃 情報シートを確認した上で捜索を続ける ※それぞれ電池容量を1時間ごとに記録 ※グループ1は10:30までに一度もすれ違った通知が来なかった場合は、本部に連絡→徘徊者の正確な位置情報からすれ違いを行う。</p> </div> <div data-bbox="1053 313 1356 716" data-label="Image"> </div>

【検証5】

竹やぶの中に発信器を設置し、入りくんだ地形においてどのあたりまで感知できるか検証を行う。やぶの中数カ所に場所を変えてボランティアアプリを利用して感知状況を確認

見晴らしのいい場所であれば、32mを超えても感知することができましたが、くぼみや地面に置かれた、やぶの中で倒れられている場合を想定した状態であれば、6Mまで近づかないと感知しない場合もありました。



見晴らしのいい場合	32m80
道から感知した場合	23m20
くぼみ等の地面に置いた場合	6m70
見晴らしのいい地面においた場合	17m

終わりに

事業に関わっていただいている方々からコメントをいただいています。

- 乙訓消防組合 消防本部 警防課長 中島光雄 様
乙訓消防組合とは、見守り体制についてご意見をいただいたり、施策への協力をいただいています。また、有事には情報共有を行い捜索にあたっています。
- 京都府健康福祉部高齢者支援課・乙訓保健所 職員一同 様
施策の実施にあたり、京都府新・地域包括ケア総合交付金の交付いただいたり、捜索体験に参加いただいています。
- 長岡京市地域包括支援センター 職員一同 様
地域包括支援センターは高齢者の窓口として普段の高齢者の様子や地域づくりを中心に活動いただいています。また、有事には市職員とともに捜索にあたっています。
- 阪神電気鉄道株式会社 小坂光彦 様
どのような高齢者の見守りシステムがあればいいのか、どのように運用するのがいいのか一緒に検討を行いました。また、捜索体験では、機器の提供等ご協力をいただいています。
- リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ株式会社の 藤森和香子 様
駅前を中心にソフトバンクの Wi-Fi スポットを一緒に回り設置のお願いをしました。平成 29 年度も引き続き Wi-Fi スポットに設置した受信器を継続しお世話になります。

事業に関わっていただいた方からのコメント①

【連携させていただいている乙訓消防組合消防本部 警防課長 中島光雄 様】

全国的に高齢者人口が増加傾向にあることから、認知症による行方不明事例が社会問題の一つとなっており、乙訓消防組合にも行方不明者発生の通報が多く寄せられるようになってきました。

年々高齢化率が増加している長岡京市においても、認知症施策として「おでかけあんしん見守り事業」を開始され、団体・事業所や住民の方々に協力を求め、「見守りネットワーク」を構築され、行方不明者の早期発見に大きな成果を上げておられます。

とりわけ、Bluetooth 機能を利用した見守り体制は、人の目では見逃しがちな場面でも、位置情報が確認できるだけでなく、移動経路が予測できるなど、大変期待できる事業と考えます。今後は、固定受信機の増設や「ぶじかえる応援団」の賛同者の増加により、更に精度が向上し認知症による行方不明者の早期発見に繋がることを期待しています。

当消防組合においても、警察機関とともに協力体制を強化し、安心できるまちづくりに努めていきたいと思えます。

乙訓消防組合消防本部 警防課長 中島 光雄

事業に関わっていただいた方からのコメント②

【京都府健康福祉部高齢者支援課・乙訓保健所職員】

認知症等による行方不明者は、古くて新しい課題ですが、長岡京市におかれては、平成25年に行方不明者が亡くなられたことが契機となり、「おでかけあんしん見守り事業」として、精力的に取組を進めてこられました。

行方不明者捜索体験や振り返りにも参加させていただきましたが、課題を明確に設定して検証を繰り返しながら戦略的に事業を組み立てておられること、住民一人ひとりが認知症を正しく理解して地域ぐるみで見守りが行えるよう工夫されていることが印象に残っています。

また、捜索体験については、多くの自治会から“実施したい”との声があがっていると伺っていますが、これほど短期間で、住民の方々の何かしたいという気持ちを上手に育てられたのは、迷い人情報メールや「ぶじかえる応援団」など住民に分かりやすいアプローチで、最初の行動につなげてこられたことも成果だと思います。

今回の報告書には、施策の概要や成果がまとめられていますが、これらはもとより、認知症にやさしいまちづくりに向けて、どのような戦略で施策を組み合わせればよいかという点でも参考になるのではないのでしょうか。

京都府としては、長岡京市の取組がモデルとなって、府内に広がっていくことを期待するとともに、今後は、近隣市町村や警察署など関係機関とのより迅速な情報共有や、交通機関の利用を想定した鉄道会社との連携など、広域での見守り体制の構築も必要となってくるので、こうした新たな取組についても、連携を進めていきたいと考えています。

京都府健康福祉部高齢者支援課・乙訓保健所職員一同



事業に関わっていただいた方からのコメント③

【長岡京市東地域包括支援センター（基幹・機能強化）職員】

長岡京市東包括支援センターでは、「認知症らしき人」のひとり歩きを心配してくださる方からの連絡やご相談をいただく機会がたくさんあります。そのたびに思うのは、気にかけていただける方や地域の皆さんへの「見守っていただきありがとうございます」という気持ちです。昨今では、地域関係が希薄になってきたと申しますが、長岡京市にはまだまだたくさんの市民の皆さんのつながりがあり、そのつながりに支えられて、高齢になっても住み慣れた自宅で、自分らしく暮らすことができる方もいらっしゃいます。道ですれ違いざまに「あれっ」と思っても、知らない人に「どちらへお出かけですか」と聞く勇気が持てるものではありません。日頃からのお付き合いあってこそ、心配な高齢者の方に「今日はどこまで出かけるの？」と聞けるようになり、おとなり近所の皆さんが「お互いさま」と少しのお付き合いを続けていただくことで、「高齢者も安心して暮らせるまち」になるのです。そういう地域での見守りが続くよう、大人だけでなく、子どもにも地域のつながりの一員になってもらえるよう、「認知症サポーター養成講座」を実施し、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の市民の皆さんに認知症への理解を深める活動をこれからも継続して実施していきたいと思っております。

私たち長岡京市東包括支援センターでは、万が一、行方不明者があったときに市役所や関係機関の皆さんと協力して捜すお手伝いをするのはもちろんですが、高齢者ご自身やご家族の立場に立ちながら、市民の皆さんに協力をいただき、みんなが安心して暮らせるように様々な出前講座で「迷い人情報メールサポーター」や「ぶじかえる応援団」のご案内もしています。

実際に、帰れなくなった高齢者の方を捜すため普段の暮らしぶりを聞き、歩いて行かれそうなところをひとつひとつ丁寧にまわる時、「うちの前を通られたので」と、教えていただくことがあります。その後、ご家族のもとに帰れた時のご本人の安心された表情を見て、ご本人・ご家族、協力いただいた市民さんと私たちが共に喜びを分かち合い、「無事でよかった」と心から思います。以前は、外が暗くなると捜しにくくなるため、夜が来ることが心配でした。今は、Bluetooth等のお陰で、事前登録をいただいている方は、暗くなっても捜し続けることができるようになり、少しでも早く安全にお家に帰っていただけるようになったと実感しています。私たちの力だけでは出来ないことも、市民の皆さんの協力があることを心強く感じながら「みんなが協力してくださっている。私たちも頑張ろう」と思うことができます。今後も、私たちとともに、一人でも多くの市民の皆さんにこの活動の「お互いさま」の意義をご理解いただきご協力をお願いできれば大変うれしく思います。

長岡京市東包括支援センター（基幹・機能強化担当）職員一同

事業に関わっていただいた方からのコメント④

【Bluetooth 機器をご提供いただいた阪神電気鉄道株式会社のご担当 小坂光彦 様】

阪急阪神ホールディングスグループの経営理念は、『「安心・快適」、そして「夢・感動」をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献します』です。その「安心」を具現化させた事業が、阪神電気鉄道の「ミマモルメ」です。

ミマモルメは、阪急阪神沿線にお住まいの皆様に「安心」をお届けし、より住みやすい環境づくりを目指して参りました。長岡京市様では、2011年からお子さま向け「登下校ミマモルメ」、2014年には高齢者様向けに「ミマモルメ GPS サービス」、2016年に「まちなかミマモルメ」を導入させていただきました。

今回の「まちなかミマモルメ」は、皆様の利便性を向上させるために「Bluetooth Low Energy」という最新の技術を用いて、タグの小型化、端末の費用削減に取り組みました。一方、当技術は、その簡便性ゆえ、セキュリティが脆弱で、簡単にIDを悪用すること（例えば高齢者の外出を察知できるアプリを作成する等）が可能です。そこでミマモルメでは、独自にセキュリティを組み込み、長岡京市民の皆様が安心してお使いできることを実現いたしました。

長岡京市様では、「見守りネットワーク」の構築により、ご家族、地域、そして高齢介護課様をはじめ様々な公的機関がひとつになり、そこに参画されるおひとりのおひとりの温かい心を繋ぐことで、高齢者の皆様、ご家族の皆様の安心を支えるという本来あるべき「安心できるまちづくり」が実践されております。そこに、ミマモルメのICT技術を取り込み、うまく活用されていらっしゃいます。この人と技術の両輪が、行方不明者の早期発見につながっており、私達もその一役を担えていることは、この上ない喜びです。

このような長岡京市モデルが、他の自治体様にも大きく広がり、人々の温かい心で社会が埋め尽くされることが、私達が目指す姿だと考えております。

ミマモルメスタッフ一同、このような遣り甲斐をお与えいただいた長岡京市の皆様にご感謝するとともに、今後におきましても、微力ながら皆様の安心に貢献し続けていきたいと思っております。

阪神電気鉄道株式会社
新規事業推進室 課長
(あんしん・教育事業統括)
小坂光彦

事業に関わっていただいた方からのコメント⑤

【ソフトバンク Wi-Fi スポットへ Bluetooth 受信器をご提供いただいた

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ株式会社のご担当 藤森和香子 様】

私自身3人の子供の母親であり、高齢の義母と同居しています。夫婦共働きなので、「放課後塾に行ったかな?」「おばあちゃん、買い物行ったきりまだ戻らない」など、日常的に家族の心配をする事があります。家族である以上、様々な心配の種は尽きませんので、認知症を抱えている高齢者の介護をなさっている方々のご苦勞、ご心勞は想像に難くありません。心配のあまり、近隣のご迷惑を考えて、などの理由で、一人で外出させる事をためらう介護者の方もいらっしゃると思います。「迷子になっても大丈夫、地域で見守りネットワークができているから、安心してご本人に外出させてあげてください」と言える仕組みがあれば、ご家族にとっても、ご本人にとっても、大きな安心感・安定感に繋がり、少しでも健全な日常へ近づける事ができるのではないかと思います。

徘徊は場所も時間も関係なく、人の手での見守りは限界があります。ITの力でサポートする事によって少しでも皆様の安心感に繋がれたら、という思いで、「SOTOE!」の構想をスタート致しました。

実証実験を開始するにあたっては、長岡京市さまより直接地域の皆様へ思いを語って頂いた事により、ソフトバンク Wi-Fi スポットである店舗さまも、その理念に賛同・共感頂き、協力を快諾頂きました。

今回の実証実験はこういった行政と地域の皆様のご協力によって支えられています。この仕組みを、日本全国に広げていき、より多くの皆様へ安心をお届けできる事が、地域でご協力頂いている皆様の喜びに繋がれば、と願っております。

最後となりますが、実証実験にご協力いただいた長岡京市高齢介護課さま、阪神電鉄(株)さま、ソフトバンク Wi-Fi スポット店舗さま、ほか大勢のご協力いただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ(株)

ソリューション事業部 シニアマネージャー

藤森和香子

今回の事業を実施するにあたり、説明させていただいたときにいろいろなご意見をいただき後押しをしていただいた自治会長や民生児童委員の皆さま、機関紙に周知の記事を載せていただいた長岡京市老人クラブ連合会の皆さま、西山に続く主要道路に固定受信器を設置する際一緒に設置場所を検討いただいた長五小地域コミュニティ協議会の皆さま、検証・実証実験のため快く店舗に固定受信器を設置いただいた商店の皆さま、電柱に固定受信器を設置するためにご尽力いただいた関西電力及びNTTのご担当者の方、本当に多くの方にご協力をいただきました。

本当にありがとうございました。

ご協力いただいた方の認知症の方への思い、認知症に対する理解、地域の一員であるという意識に触れ、目指す地域づくりが時間はかかっても可能であると再認識しました。

行方不明の連絡があると、担当者に緊張が走ります。皆、行方不明者の無事を祈りながらそれぞれできることを一生懸命考え、家族に連絡し、関係機関と連携し、迷い人情報メールを送り情報シートを作成します。たとえその準備途中であっても無事に発見された連絡を受けたときに思うことは「よかった。」だけです。本当にこのよかったと言う思いを今回も！と思いながら対応にあたります。1日で発見まで至らなかったときは、もっとできることはないか、無事でいらっしやるかと思い眠れぬ夜を過ごします。

認知症への課題解決において市役所ができることはとても小さなことです。地域住民の方の協力の大切さを感じています。だからこそ市役所がしなければいけないことは地域住民の方の相力の思いを形にすることだと考えています。共助の思いがたくさん集まってこそ初めて解決できるのです。認知症であることを周りの方たちに話すことができ、周りの人たちは温かい気持ちを持ってその家族も見守れる、そんな地域を作っていきたい。そのような思いを忘れずこれからも取り組んでいきたいと思えます。

担当職員一同

